

厚生労働科学研究補助金（労働安全衛生総合研究事業）
（総括（分担））研究報告書

カリキュラム原案の作成と教材作成及び講義の試行に関する研究

研究分担者 伊藤和貴 愛媛大学大学院連合農学研究科教授

研究要旨

ミャンマーの工科系大学で、日本式の労働安全衛生に関する講義を継続的に開講し、日本的な安全衛生習慣を持った技術者を育成することで、ヤンゴン地域のティラワに進出している日本企業で日本式の労働安全衛生教育を受けたミャンマーの工科系大学の学生が活躍できることを目的とした安全衛生教育カリキュラムの開発。

A. 研究目的

ミャンマーの工科系大学で、日本式の労働安全衛生に関する講義を継続的に開講し、日本的な安全衛生習慣を持った技術者を育成するための2018年試行カリキュラム原案の作成を行う。

さらに、作成したカリキュラム原案を基に、研究分担者とともに教材を作成し、ミャンマーの大学で実際に教員を対象として講義を行い、カリキュラムや教材の改善点を明らかにする。

B. 研究方法

日本式安全衛生教育のためのカリキュラムの開発にあたっては、愛媛大学で用いている初任者向け教育用教材を基に、立案し、2018年度試行用教材として作成する。

C. 研究結果

ミャンマーの工科系大学向けに安全衛生教育教材とカリキュラムの原案を作成した。これを基に、本事業の研究分担者の専門分野を考慮して分担作成を依頼した。分担作成教材を含めて教材をまとめ、分担者であるルース先生に英文校閲と最終調整を依頼し、2018年度試行用の教材作成を行った。

これらの教材を使用してミャンマーの工科系大学3大学で教員向けの試行講義を分担して行った。

D. 考察

2018年度に試行した安全衛生教育教材とカリキュラムを使用して分担者全員でミャンマーの工科系大学3大学で教員向けの試行講義を実施した。

安全衛生概念が未発達な国情を考慮して、この教材とカリキュラム開発で特に意識したのは、なぜ安全が必要なのか？という点を強調し、さらに日本の安全衛生教育現場の初任者向けの安全衛生の最も基本的な内容に限定したことである。それでも、労働安全衛生という概念の確立されていない人々に労働安全衛生の講義を行うことの難しさを痛感した。安全思想の啓蒙を行う必要があることが分かった。

E. 結論

結果、ミャンマーの工科系大学に初心者向け日本式安全衛生教育をミャンマーで初めて実施することができた。さらに、安全衛生概念が未熟な社会での安全衛生教育の困難を理解した。

F. 研究発表

1. 論文発表 : なし
2. 学会発表 :
研究代表と同じ

G. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得 : なし
2. 実用新案登録 : なし
3. その他 : なし